

トピックス

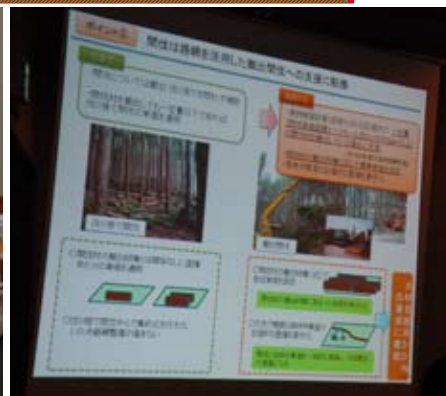


大阪市北区天満橋 1-8-75 TEL 050-3160-6763
<http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>

民国連携に向け准フォレスターと情報交換会等を実施 ～流域管理調整官会議において～



流域管理調整官会議の様子



森林整備事業の補助制度についての説明



県の准フォレスター 前川局長

【計画部 計画課】9月3日（月）～4日（火）の2日間にかけて、近畿中国森林管理局大会議室において、署等の流域管理調整官と各府県の准フォレスター32名が一同に会し、流域管理システムの推進について情報交換を行いました。

この会議は、国有林と民有林との連携や市町村等への支援について、准フォレスターとしての活動や流域管理システムの推進等の業務を担う流域管理調整官の役割は極めて重要となっていることから、府県、林野庁、局及び署の担当者が情報交換並びに連絡調整等を行うことにより、これらの諸活動等の円滑な推進を図ることを目的として開催されました。

特に、昨年度から森林計画制度の見直しや、森林・林業基本計画の改定が行われ、本年4月より新たな森林計画制度が全面施行となりました。

現在、森林・林業の再生に向け ①路網の整備 ②森林施業の集約化 ③人材の育成 を3本柱として、森林・林業関係者が総力をあげて森林経営計画作成等の取り組みを推進しているところです。

初日の会議では、林野庁から、民有林の森林整備補助体系や流域管理システムの動向等について説明の後、管内の各府県から出席頂いた准フォレスターから、日頃の

取組内容や推進体制、今年度の予定などの活動状況等を報告していただきました。また、准フォレスターとして活動する中で各府県が抱える問題点も報告され、今後の課題として整理・検討すべき事項も明らかにされました。

2日目は、流域管理システムの推進について林野庁からの説明や、第4次国有林野事業アクションプログラムの ①計画的な木材供給の推進 ②森林施業の効率化共通化等の取組 ③林業技術の開発・普及・啓発、林業事業体の育成 ④安全・安心への取組 ⑤生物多様性保全に配慮した取組の推進 ⑥上下流の連携強化のための下流住民等に対する情報提供や林業体験活動等の実施について 各府県からの意見、要望等を出して頂きました。近畿中国森林管理局としても地域との連携強化、情報の提供など積極的な対応を行うことを改めて表明し、引き続き各府県の協力をお願いしました。

今後、国有林野事業の一般会計化に伴い、国有林の果たすべき役割は非常に重要であり、今回の会議において、森林・林業の再生に向け、各府県の准フォレスター間で問題点も含めた情報共有ができた事や民有林と国有林が連携して取組まなければならないこと等が改めて再認識できた2日間となりました。

森林整備企画研修を実施

～森林・林業再生プランの着実な推進に向け～

【森林整備部 販売課】8月20日（月）～22日（水）、森林技術センター等において、森林整備企画者研修を実施し、各森林管理署等から研修生14名と、岡山森林管理署の職員が聴講しました。

この研修は、森林・林業再生プランの着実な推進を図るため、長期的視点に立った間伐計画の立案等に必要な知識・技術の習得をめざすものです。

研修初日は、冒頭に細川販売課長から、本研修実施の背景となる最近の森林・林業の情勢について、近畿中国森林管理局における素材生産事業の状況から、最近の木材価格の動向、木材の用途や流通に至るまで幅広い内容の講義を行いました。

その後、3班に分かれて、岡山森林管理署管内の古谷（ふるや）国有林で1,000ヘクタール程度の森林を対象として、森林資源や地形・地質等の情報をもとに、10年間の間伐計画を大まかにイメージし、それに必要な林業専用道の新規開設路線を室内で検討しました。



森林・林業の情勢に関する講義



林業専用道の開設路線検討作業

2日目の午前中には、実際に現地の踏査を行い、尾根からの遠望や林内に入って地形を確認するなど、机上で考えた路線の位置で良いかどうか真剣に検証しました。

午後には、森林技術センターに戻り、まず、現地踏査の結果を踏まえて、林業専用道の新規開設路線のルートを修正しました。

その上で、10年間にわたる木材の安定供給ができるように小班ごとの間伐予定年度を決め、これらを合わせた地域の林業ビジョンをまとめました。

最終日には、各班がまとめた地域の林業ビジョンの発



計画路線の縦断勾配を測量



間伐年度の検討

表を行いました。その中で路網計画と間伐計画を一体として考えることの重要性を表や写真を用いてわかりやすく説明する工夫が凝らされており、プレゼンテーションの練習にもなったことと思います。

この研修を通じて間伐計画の立案からそれに伴う森林作業道新設計画について理解でき、今後の業務の中で活かしていくことが期待されます。



発表・意見交換

地域ニュース

刈払機の安全講習会を開催

国有林の技術力をPR

【森林技術センター】森林技術センターでは、9月13日（木）、公益社団法人 新見市シルバー人材センター（以下、人材センター）から屋外作業（農林業、公園管理、道路除草等）に従事する職員の方を対象とした講習会を実施して欲しいとの依頼を受け、刈払機の安全講習会を実施しました。

講習会には、人材センターの屋外作業に従事する職員等17名が参加し、元山副所長が講師となり、振動障害の防止及び労働災害防止のためには、機械の点検・整備が重要であることや保護具の着用及び基本動作を守ることなどで安全に作業が行える旨の講義を行いました。

また、夏期作業での注意点として、蜂刺され災害、熱中症対策等についても説明を行い、作業中に携行すべき物として、蜂の毒を吸い出すボイゾンリムーバー、抗ヒスタミン軟膏、蜂用殺虫剤、携帯用冷却パック等の紹介も行いました。

講義に続き実地講習も行い、刈払い作業の足の運び方、刈払い動作等について、森林技術センターの基幹作業職員が、その場で基本動作を直接指導しました。

最後に、講習会を終えた感想として、経験年数は多いものの基本動作を学んでいない場合、「我流」＝「基本動作」となってしまう、修正は難しいとの印象を受けました。また、私たちの職場においても、「基本動作」を遵守しているつもりが、いつの間にか「我流>基本動作」になっていないか、自分たちの作業を見直す良い機会となりました。

なお、森林技術センターでは、今後もこのような機会を活用し、国有林野事業の技術力を広くPRし普及していきたいと考えています。



自動目立機の講習



実地講習の様子

「オオクワガタの棲める森づくり」 下刈り体験イベント

【箕面森林環境保全ふれあいセンター】8月21日（火）箕面国有林（箕面市）において公募した小学生を対象にした森を育てる「下刈り」をメインとした体験イベントを実施しました。日本森林ボランティア協会の皆さんや、箕面市内のボランティアの方々の協力により充実したイベントとなりました。

この日の市街地では厳しい残暑でしたが、山頂近くの会場は風が心地よく、木陰は更に過ごしやすい環境でした。森を育てることや木材を使い炭素を固定させることなど、子どもにとっては難しいことでも体験を通じて理解することで、記憶に残るものになったと思います。参加した男子の一人は「将来林業の仕事をしたくてこのイベントに参加しました」とたのもしい強者も参加してくれています。最後の「ふりかえり」でも、「大きな鎌を使って草を刈ることが楽しかった」「木工が楽しくできた」と皆笑顔で帰って行きました。



下刈り体験中



ジオラマ作成中

親子で木製写真フレームづくりと自然観察会 日本触媒・水源の森

【兵庫森林管理署】8月25日（土）、宍粟（しろう）市赤西（あかさい）国有林で、法人の森林の協定を締結している（株）日本触媒が、写真フレームづくり・丸太のベンチの作成及び自然観察会を行い、兵庫・大阪から社員とその家族45名とNPOひょうご森の倶楽部4名、当署から6名の職員が参加しました。

丸太ベンチ作成では、皮むきをした丸太をカスガイで組み立て、現地に設置すると、林内に溶け込んだような出来映えにみなさん満足そうな顔を浮かべていました。



写真フレーム片手に記念撮影

一方、子供たちが主役の写真フレームづくりでは、当署で用意した材料を思い思いに飾りつけ、立派な木製の作品が出来上がり、完成した作品を片手にハイポーズ。

そうかと思えば、子供そっこのけで工作に夢中のお父さんも見受けられ、参加者は森林の中での活動を満喫していました。

昼食は全員でバーベキューを平らげた後、午後からは兵庫県立人と自然の博物館の三橋研究員を講師に、赤西渓谷の沢の生き物を観察しました。全身ずぶ濡れになりながら

沢の中を網ですくうと、ハコネサンショウウオなど希少なものを含め10種類程度の生き物を観察することができました。予定時間をオーバーしてのイベントでしたが、後片付け後、名残惜しい中で次回の参加も約束し帰路につきました。



川の中の生き物観察

第3回「公共施設等木材利用促進のための研究会」 現地視察開催

【広島北部森林管理署】9月13日（木）、広島北部森林管理署が主催する第3回「公共施設等木材利用促進のための研究会」現地視察を開催しました。

当日は、研究会を構成する広島県林業課、広島県林業技術センター（三次市）並びに三次市、庄原市、安芸高田市、神石高原町の林務担当課、住宅建築等を中心とした関係課、社団法人広島県建築士会県北支部会員及びオブザーバーである広島インテリア協議会（事務局：広島市）、当署の職員合わせて22人が参加しました。

現地視察は、広島県林業技術センター木材実験棟、三次市布野図書館、広島北部森林管理署の3箇所を視察しました。

県木材実験棟では、林業技術センター技術支援部部長から施設の概要説明を受けました。参加者は、LVL（単板積層材）を使用したRH（鉄筋拘束接合）構法による大規模木造建築物を見て熱心にメモをとったり、建築後、経年変色した木材のメンテナンスや木材の強度試験等について質問していました。

三次市布野図書館では、当施設を設計した地元の岡田建築設計事務所の岡田所長から「三次市出身の歌人、中村憲吉の生家の修復を中心とした中村憲吉記念文芸館整備工事に伴い、図書館を建築した」旨の説明を受けました。

施設の内装は、広島県産材のスギを使用し、天井からスギの香りがほのかに漂い、梁を露出したディテールの施設に参加者は、「やっぱり広島県産のスギはいいのお」と笑顔で参加者と会話を交わしていました。

広島北部森林管理署では、担当職員からスライドにより庁舎新築概要の説明があり、県北最大の木造オフィスを見て、卓越した木造建築技術力と吟味された国産材で施工された建物に、参加者は感嘆していました。



広島北部森林管理署庁舎を見学する参加者

当研究会では、11月に開催予定の最終の研究会での意見交換を経て、公共建築物の木造・木質化建築物の木材利用促進についての提言をまとめることとしています。

LVLとは、

スライサーなどの切削機械で切削された単板の繊維方向（木理＝木目）を、すべて平行にして積層・接着して造られる木材加工製品です。

RH 構法とは、

別名「鉄筋拘束接合」ともい、木材に孔をあげ加工をし、その中に異形鉄筋を挿入し、空隙を接着剤（エポキシ樹脂）で充填するラーメン工法です。

ラーメン工法とは、

木造在来工法のように、柱と梁の組合せによる構造です。これは、垂直加重や横加重（風や地震）がかかっても、柱と梁が緊結されて変形せず耐えるという構造です。



【総務部 職員厚生課】クマは通常は奥山に生息しています。しかし、時には生息地に隣接する人里まで出没することがあります。

特に秋から初冬（9月～11月）にかけて、クマは冬眠のためエサを探して活発に行動します。

今年度の堅果（ドングリ）類の豊凶調査では、特にブナが凶作で、里山や人家周辺への出没が予想されます。

これから行楽の秋となり、登山やハイキング、山菜採りなどに行かれる時に、クマと遭遇し襲われる危険性もあります。

そこでクマに襲われないため下記のアドバイスを参考にし、各自クマに用心してください。

クマと遭遇しない工夫を

- クマの出没情報を収集し、危険な場所へは近づかない。
- 早朝や夕方、日中でも薄暗い時や霞が出ているときは活発に活動する。
- クマの臭覚と聴覚は非常にすぐれている。
高い周波数が出る鈴や笛で自分の存在を知らせ、クマに先に逃げてもらう。
（入林の際は、ホイッスル、鈴、熊撃退スプレー、ラッパ、緊急ブザー、爆竹、携帯ラジオ等を携行し、必要に応じて使用する。）
- クマの新しい食痕や糞、足跡、爪跡を見つけたら引き返す。
- 単独行動は避け、2人以上で行動する。

クマと遭遇したら

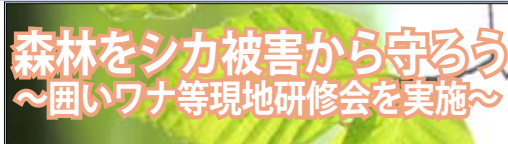
- 慌てず騒がず、落ち着くことが肝心。
- クマとの距離が離れていて、まだ熊があなたに気づいていなければ、その場を静かに離れる。
- クマは100mを7秒台（時速40～50km）で走る能力がある。木登りも泳ぎも達者であることを念頭に置いて行動すること。
- 至近距離で突然クマと遭遇した場合の危険な行為は、急に立ち上がる、大声で叫ぶ、大きな音を出す、物を投げつける。これらの行為は、クマを刺激しかえって攻撃を誘発させる可能性が高い。
- 急に背中を見せて走って逃げない。（クマは反射的に追い掛けてくる）
- あなたがクマに敵意のないことを伝える。つまり、動かずにじっとしている。クマの方が逃げるまで静かに待つ。
- 子クマの近くには必ず親クマがいることを念頭に置くこと。子クマだからと不用意に近づかない。

クマが接近してきたり、攻撃してきたら

- 傘をクマの目の前で急に開いたり、ポンチョやビニールシートを広げて助かった例もある。
- 退避するときは、持ち物をクマに向かって一つずつ投げながら逃げる。
- 荷物や服をクマとあなたの間で捨て、クマの関心がそちらに移っているときに、静かに逃げる。ただし、中には人間に興味を持っているクマもいるので注意。
- クマに覆いかぶされて、持っていた鉈でクマの鼻を叩いて追い払ったり、クマに足を噛まれたときに片方の足でクマの鼻や顔を蹴って助かった事例もある。
- 死んだふりをしても助からない。
クマは、好奇心が強いのであなたを噛んだり、引っ掻いたりします。クマに攻撃され何も対処する方法がない場合、窪地があれば、窪地に伏せ・顔や首筋腹部などを腕で保護し、丸くなり出来るだけダメージの少ない体勢でクマが攻撃をやめ、逃げるまで耐え抜くことです。

人と熊の共存のために

- 弁当の食べ残しや空き缶などがクマを誘因する原因ともなっています。残飯の味を覚えたクマは、やがて人里周辺まで接近して、人間や作物に被害を発生させます。原因は人間側にあると言えます。残飯や空き缶は、必ず持ち帰りましょう。



【鳥取森林管理署】8月28日（火）、鳥取森林管理署の主催で、鳥取県東部で兵庫県境に位置する若桜町内「東山（とうせん）国有林」において、「野生動物捕獲装置と移動組立式囲いワナの設置に関する研修会」を開催



研修会に参加された皆様

し、若桜町鳥獣害対策協議会と管理署職員の約30名が参加しました。

若桜町は近年シカの食害により農林業などに深刻な被害が発生しており、今回の研修はその対策の一環で実施しました。参加した若桜町鳥獣害対策協議会の山根詳生（やまねよしお）さんは、「シカの食害対策に苦慮する毎日であり、関係者が一体になってこの様な取り組みに今後も参加していきたい。」と語っていました。

鳥取森林管理署は、このような民国連携の「シカなどによる森林被害を防止」をする取り組みを今後も実施して行く予定としています。



囲いワナ組み立て中

森林のギャラリー（局庁舎1階）

【10月の展示スケジュール】

- 10/15～10/26 森林から生まれ『出逢ふ』をつなぐ
【株式会社 山櫻】
- 10/29～11/9 花と水彩画の癒しの空間
【花フラフト それいゆ】